

2 指導の重点

(1)各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動等

ア 各教科

- (ア) 主体的・対話的な深い学びの充実に向けて、生徒が「何のために」「誰のために」というゴールを意識し、「どのように学ぶのか」「何を学ぶのか」を理解して学習に向き合えるよう、学習の課題や内容、方法等を明確にし、生徒による自己決定の機会も設け、主体的な学びとなる授業を推進する。
- (イ) 基礎的・基本的な学習の定着を目指し、長期休業日中や放課後を活用した学習教室等、地域人財を活用しながら実施する。
- (ウ) 個別最適な学びに向けてタブレット端末を日常的に活用する。また、生徒同士の意見交流をはじめ協働的な学びにおいても積極的にタブレット端末を活用する。
- (エ) 学習調査等の結果や授業アンケート等の結果の分析を踏まえ「授業改善推進プラン」を作成し、生徒のニーズや実態に基づく質の高い授業を行う。
- (オ) 数学科、英語科については「東京方式習熟度別ガイドライン」に基づき、習熟度別少人数授業を全学年で実施し、個の状況に応じた指導（個別最適な指導）を工夫する。
- (カ) 既習事項と学習課題を結びつけながら、自ら学習を調整しながら粘り強く課題に取り組む態度を醸成する。
- (キ) 生徒にとって「必要性」のある課題を工夫しながら、家庭と連携し家庭学習の定着を図る。
- (ク) T G Gでの体験やA L Tの効果的な活用を図りながら、校内においても生徒が主体的に外国語によるコミュニケーションを図る。
- (ケ) 「漢検」「数研」「英検」の機会を設定して、自己の可能性を切り拓き、主体的に学びを進める機会とする。

イ 道徳科

- (ア) 道徳科の授業を要とし、別葉を基に、全教育活動を通じた道徳教育を推進する。
- (イ) 道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深め、その考えをもとに、他者との対話や討論を行う道徳科の授業を推進する。
- (ウ) 道徳教育推進教師を中心に、組織的な道徳教育の推進を行い、さらに保護者・地域と連携した道徳授業地区公開講座を行い、道徳教育を充実する。

ウ 総合的な学習の時間

- (ア) 総合的な学習の時間を核として、各教科等の学習内容の関連を捉えた教科横断的な学習や、生徒の主体的及び探究的な学習を進め、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく学びを推進する。
- (イ) 持続可能な開発目標（S D G s）と関連付けた学習を各教科と連携して行い、持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を育成する。
- (ウ) 図書館や社会施設と連携した学びを推進し、生涯学習への導入とするとともに、創造性や協働性、社会性を育む機会を設ける。

エ 特別活動

- (ア) 学級活動を基盤として、自らの役割と責任を果たし、互いに協力し、諸課題を解決しようとする自主的な態度や自治的能力を育成する。
- (イ) 生徒会活動を通じて、主権者教育の視点に立つ、社会に参画する態度や自治的能力を養い、よりよい学校を作っていこうとする意識と態度を育む。
- (ウ) 学校行事を通じて、生徒が物ごとを自分ごととして考え、集団への所属観や連帯感を深めるとともに、達成感や自己有用感を高め、よりよい学校生活を送るために最後までやり抜く態度を育成する。

(2)特色ある教育活動

- ア 校内委員会で生徒の特性や適応状況等を踏まえた学校としての対応方針の検討、連携型個別指導計画の作成の上、学習支援室や指導員と連携した生徒への支援を行っていく。
- イ 学生ボランティアや地域人財を活用した学習スペースを設けて、生徒の学習支援や居場所づくりを行う。
- ウ 部活動指導員や部活動指導補助員を積極的に導入し、生徒の活動に対する意欲を育むとともに、生徒一人一人の可能性を引き出す。
- エ 小中連携を年3回実施し、児童・生徒が直接関わる取組や小学校6年生の中学校体験を位置づけ、小学校から中学校への円滑な適応を図る。
- オ オリンピックレガシーとして、ニュースポーツ等の導入を行いながら、スポーツ志向を高め、地域と連携した障害者理解に基づく共生社会に向けた取組を推進する。